

2019 (令和 元年) 10月1日発行

発行者: 大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部: 〒544-0013 大阪市生野区巽中4-19-19 tel 080-5702-1543 (編集責任者: 広報部田隅)

天候不安定の春に思う (遺稿文より)

大阪湾の水温が例年より1度以上も高めに終始した冬場から、ようやく春を迎えて水温の回復する時期を迎えた今、不安定な天候に悩まされて出漁もままならない状況が続いています。

この稿を書いているここ数日散り始めの桜の花びらを吹き飛ばすような西南西の強風が吹き荒れています。

本来なら温かい春風のはずが、困ったことに冷たい風です。日本海を次々と低気圧が通過し、この低気圧に太平洋にある移動性の高気圧から西南西の強い風が吹き込んでいます。これによって紀伊水道の温かい潮が押し上げられ、マダイ、タチウオなどが入り込む“上り”の現象が起きる訳です。

ところが、4月初めからの天候はといえば、いわゆる採種梅雨の状態が続き、ほとんど晴れた日がない状態でした。原因は日本列島の天候を左右する役割の偏西風(ジェット気流)が例年より西に蛇行していることがあります。

ある乗合船の船長の話ですが「沖に出られる日がないんよ、予約のお客さんがあっても、天気予報で、天気は荒れ気味で不安定やて言われたら、来てくれて、よう言わん。実際に現場の海では、たいがい船出せるんやけどな」

釣り仲間何人かを誘って釣行計画を立て、船頭に予約した、グループのリーダーとしては、もっとも悩ましい天気だというわけです。こういう時に得てして起りがちなのが「海が風ぎでも雨やったら止めよか」といって、

<https://jofi-osaka.com>



来田 仁成

(大阪府釣りインストラクター連絡機構代表)



勝手にキャンセルしてくる人もいます。且つ大阪湾沖釣りクラブ会員150人のお世話をしていた時代「オマエ、雨で溶けるんか」などという激しい言葉のやり取りもありました。

沖釣りのクラブというより、沖釣りの仲間のルールとして、計画を言い出した人の「この指にたかる」以上、全ての判断はその人に任せ、余計な口出しをしないのが基本的な心得でしょう。口を出したければ自分で釣行計画を立てて運営すればいいわけです。

そうしたささやかな揉め事が、結構深刻な不和につながることを理解しておいて、仲良く釣行を共にして下さい。共に同じ好みを持つ仲間が末永く続くために、ぜひお願いしておきます。それにしても気候と水温の二年続きの荒れ模様、なんとか落ち着いて好釣果を期待したいものです。

平成17年2月発行の広報誌15号から本誌44号まで15年間、毎号のトップページで釣り人としての義務や権利、自然に対する取り組み方や心がけなどを発信していただきました、これからは来田代表の意思を受け継ぎ、釣り・地球環境に係る諸問題に取り組んでいかなければと考えています。

本当にありがとうございました。

来田代表を偲んで。

全日本釣団体協議会 専務理事
大阪府釣りインストラクター連絡機構副代表
綿井良隆



JOFI大阪、来田仁成代表が6月22日早朝に逝去されました。僕と来田さんの出会いは古く、40年近く前になります。当時勤めていたグループ会社のデザイン事務所で、その会社の社長から紹介されたのが初めてお話しをした時と記憶しています。

その社長は風(ゲイラカイト)で仕掛けを沖に運ぶという、ちょっと眉唾な釣り方を提唱されていたので取材に来られていたところでした。

当時は極少数派のルアー釣りをしていた僕に興味を持って下さったのか、以後は事あるたびに連絡を下さり、合流させていただきました。

ある時は近鉄電車とタイアップしてバス釣り大会をするから手伝えとか、突然の呼び出しに道頓堀の豚カツ屋の座敷に出向くと「国と交渉しインストラクター制度を作る。ルアー関係で知っているのは君しかいないから参加せよ」とか、大阪の釣り団体協議会にルアーのクラブが無いから入れだとか、まだ若く釣り界の知識が無い僕に手取り足取り指導を下さり、まさに育てていただいたお一人だと実感しています。

特にここ20年ほどは釣り人としての義務や権利、自然に対する心がけなどを積極的に発信され、僕ばかりではなく若い釣り人にも大きな影響を与えてこられたことは皆さんもご存知の通りです。

大きな力を失ってしまった喪失感はありませんが、その意思を受け継ぎ少しでも良い釣りの世界を築いていかなければと考えています。本当にありがとうございました。

また、涅槃でお会いしましょう。 合掌

大阪府釣インストラクター連絡機構 (JOFI大阪) 代表 来田仁成さん追悼

平成16年度総会で当機構の代表に就任以来15年間にわたり釣り文化普及及び当機構の発展に尽力いただいた来田仁成さんが病氣療養中のところ6月22日(土)ご逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。



故来田代表と釣りの思い出。

NPO法人釣り文化協会
大阪府釣インストラクター連絡機構財務部
三木健司



来田先生との初めての出会いを振りかえれば、もう30年以上になります。当時NHK文化センターの釣り教室の一生徒であった私を釣りの世界に誘っていただき、その後も釣りだけでなく釣りを通したさまざまなものの見方について教えていただいたことは今も私の人生の糧となっています。

先生のお話しされる口調は非常にソフトでしたが、その中には確固とした意志が感じられ、思わず説得されてしまうことが何度もありました。

先生との釣りの思い出の中でも記憶に残っているのは、10年以上にわたって一緒にさせていただいたアマゴ釣りです。毎年解禁日の前日の夜中に出かけ、クルマで荒れた林道を走り、その先は林道歩きと沢登りという結構ハードな釣りでしたが、嬉々として沢を歩かれている姿が今も目に浮かびます。その後私は仕事が多忙となり、しばらく解禁日には釣りに行けない状況が続いていたのですが、できたらもう一度一緒にさせていただきたかったなと思う今日このごろです。

釣りのために多大な貢献をされたにもかかわらず志半ばで逝かれたことは残念でありませんが、心よりご冥福をお祈りいたしております。

弔辞にかえて

青銅企画出版代表
八木禧昌



昨年十二月初旬、梅田でとある釣りの会合があり来田仁成さんにお目に掛った。そのあと少時ロビーで談笑、期せずして互いの口を衝いて出たのは故人となられた釣り界の諸先達の、釣り精神、情熱への畏敬であった。

同時に、紙媒体とは異質のIT(情報技術)が世の中を支配する現在、江戸時代に津軽采女が著わした釣りの指南書『何羨録』以来、連綿と先達から受け継いできた所謂、「釣り心」の伝承が、この先、どうなるだろうか、という漠たる懸念にも、話は及んだ。

続きを喋り乍ら大阪メトロの西梅田駅まで歩き、来田さんをお見送りしたが、これが今生の暇乞いになるとは、神ならぬ身の知る由もなし。只管ご冥福をお祈り申し上げます。

来田先生を偲ぶ

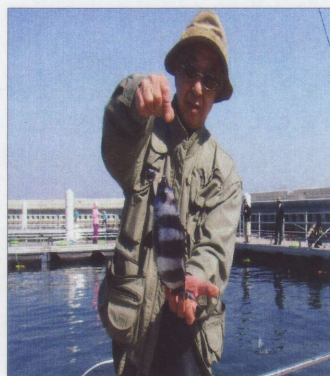
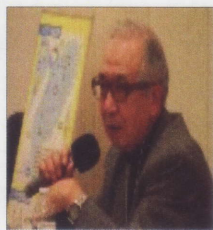
NPO法人釣り文化協会
元・関西の釣り編集者
萱間 修



私が「先生」と呼んだ釣り人は一人だけです。本当に尊敬のできる方に巡り会えて私の人生も変わりました。先生は自分のお名前を「くるったじんせい、やねん。」と笑っておられました。でも、もし、そうだとしたら、私のような人間は、くるった人にくるわされたようなもので、たいへんです。いや、冗談です。魑魅魍魎が闊歩するこの世界で、まともなものは先生の思想以外にはないと私は感じました。

それは、釣りという遊びが「自由と平和を求める行為」であるという点です。故に、釣りの権利を守るために、まさに人生をかけて戦ってこられた。釣りの権利を冒涇する釣り人に対しても深い悲しみで見つめられていた。百万人の敵がいても自分の考えが正しければ何も臆することはないとも教えていただきました。先生がいなくなった寂しさは言葉には表せません。

合掌。



報告 1

フィッシングショー大阪2019 2ブースで協力 (H31-2/2~2/3)

フィッシングショー大阪2019が2月2日（土）～3日（日）に、インテックス大阪で開催され、今年も「大阪湾海域美化安全協会のブース」と「舟釣り仕掛け教室のブース」で協力をしました。

「大阪湾海域美化安全協会のブース」では、今年も子ども達の「缶バッチ作りのサポート」、人気は相変わらず順番待ちができるほどの盛況ぶり。事前に用意されていた缶バッチの材料は2日間で1,000セットでしたが、終了1時間前にすべて無くなり、早仕舞。とにかく慌ただしい2日間でしたが、魚好き、釣り好きな子ども達が楽しそうに、真剣に缶バッチを作っている姿を見られてよかったです。（報告 室井）

「舟釣り仕掛け教室のブース」では、2日間で4回開催し、受講された方は70名でしたが満席で受講出来なかった方も多数おられました。

講習は、船釣とは、魚がいる場所を魚探等で探し、釣りをを行う積極的な釣りで、慣れた船長が指導してくれるので初心者入門にも適していますから始まり「種類」「仕掛け」「乗合船の技術解説」等、また魚がかかってからのファイトのコツや船上でのマナー、釣り座選び、道糸の太さ、オモリの重さなど一般的な決まり事を解説し、ライフジャケットの重要性、最近人気のあるタイラバについてもお話をしました。今年も多くの人に参加していただき、とても楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

（報告 石川）



報告 2

平成30年度 大和川・石川クリーン作戦に参加 (H31-3/31)

平成31年3月3日（日）ひな祭りの日、大和川・石川クリーン作戦の1会場石川河川敷会場にインストラクター2名で参加。開催予定の10時になると、250名以上の参加者が河川敷を埋め、市長や行政関係の挨拶の後、クリーン作戦の開始となりましたが、会場周辺には、ゴミはほとんど無く、ゴミがありそうな場所へ急いで移動。

草深い所には増水した時に流れ着いた発砲スチロールやペットボトル、コンビニのナイロン袋など「マイクロプラスチック」

の原因となる物品が多くあり、道路などに捨てられたペットボトルやビニール袋が雨で川に流れ込むことを、考えて戴けたらと思いました。（報告 西谷）



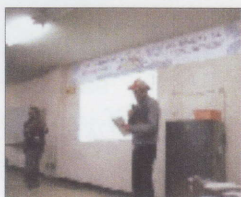
報告 3

ほっといたらあかんやん！第15回大阪湾フォーラムに参加して (H31-3/9)

大阪湾見守りネットでは、大阪湾沿岸で活動する市民や団体の情報共有・情報交換を目的として毎年1回、14年間にわたりフォーラムを開催しています。

今年は「ここからはじまる100年先の ええあんばいの海と川」と題して浜寺公園レストハウスで開催。

私達JOFI大阪も大阪湾沿岸でのゴミ拾いや自然を守る活動に参加し、フォーラムにも釣り人の立場で毎年参加しています。



朝10時より始まった「ええあんばいのワークショップ」では、里山と海が会うクラフトや、微小貝のワークショップ、海藻押し花体験等の作品の出来栄に感激。14時からのシンポジウムでは、特別プレゼンテーションとして「SDGs つてなに？」（持続可能な開発目標）のお話し、岡山県真庭市の永続的発展に向けた地方分散モデル事業を例に。ええあんばいの海を求めての講演では、住吉大社と海・大阪湾について古代から現在までをタイトルに各例を用い、住吉大社権禰宜の小出さんに大変楽しくお話をいただきました。今回のシンポジウムを聴講し、私たちJOFI大阪も自然保護・環境保全により積極的に取り組む必要があることや発表のための資料整理の必要性を実感しました。（報告 田隅）

報告 4

第23回 JOFI大阪定時総会を開催 (H31-3/31)

今年も「第23回定期総会」をヒューマンアカデミー大阪心斎橋校で、3月31日（日曜日）13時から「会員数72名（2月15日現在）のうち出席者と委任状をあわせ59名で82%

により成立していますとの開会の言葉があり開始。来田代表の挨拶ではじまるどころ、体調不良のため出席できなく「JOFI大阪の皆さんへ」との文書を依頼された物部胤三事務局長が代読。全日本釣り団体協議綿井良隆

専務理事からのご挨拶と塩見孝男相談役の挨拶があり、山崎勝彦相談役を議長に選出し議事を開始しました。第一号議案の「平成30年度事業報告」では、本部事業・協力事業、特に昨年8月と9月の台風被害で壊滅的な打撃を受けた南港魚釣り園協力事業と支部事業・個人調査事業などに、昨年を上回る393名もの協力があった事を高木事業部長から報告。第二号議案では、「広報誌の発行」内容や「ホームページ



」 「ネットラジオ」の訪問回数を報告。第三号議案「平成30年度会計報告」、第四号議案の「監査報告書」等の報告があり、すべて満場一致で了承され また、新年度へ向けて心も新たにしていこうことを確認し合いました。審議の終了後、記念写真を撮り終了しました。

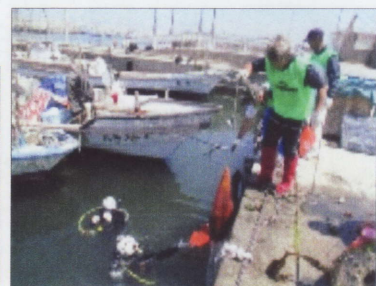
報告 5

樽井漁港で水中清掃活動(R1-5/11)

平成18年に、日本釣振興会釣り環境ビジョンの一環として水中清掃作業の第一回目を実施。新年号初の活動として令和元年5月11日(土)に樽井漁港で、日本釣振興会大阪府支部のメンバー7名と漁業関係者や協力ダイバー12名、私達インストラクター3名、大阪湾見守りネット1名、漁港関係者8名が参加協力し総勢31名で清掃作業を実施しました。

樽井漁港は船舶を係留させる側と、釣り堀を営業する側に中堤防を挟んで2分しており、今回の清掃は船舶を係留させる側の半分程度を行いました。

水温は17～18度、水深3～7m程度で透明度は良く、見た目にはゴミは無いようでしたが、底にはヘドロが有り巻き上げないように慎重な作業でしたが、回収ゴミは一般ゴミが主であり、タイヤ、バイク、バッテリー等350キロ程度のゴミが回収できました。(報告 物部)



報告 6

地域の地場産業を体験岬町観光協会船釣り教室(R1-6/23)

泉南の観光産業の漁業を体験して貰うため、岬町観光協会と小島漁業協会組合長が船釣り教室を企画し6月23日(日)に実施。インストラクター5名が釣り支援で参加しました。船釣り体験者は阪南大学の学生達等15名、初めて船釣りを経験する人も多いとのこと。山原学漁業協同組合長、観光協会副会長南条磯巳氏の「とにかく楽しんでほしいとの」の挨拶から始まり、魚の釣り方や船釣りの注意事項をインストラクターが説明。小島丸船長山原さんからエサの付け方、リール操作を解

説。実践では、エサを付ける時に手に針が刺さったり、魚が釣れて大騒ぎしたり、船釣りに慣れていないのでお祭りも多く、インストラクターも忙しく協力。釣果はオニアジ14匹とガシラ3匹でしたが、充分満喫した人、船酔いになり苦しんだ人。閉会では船長から「魚釣りは四季によっていろいろ異なった魚が釣れるので楽しみです。」船酔いをした人はこれに懲りないで魚釣りを継続してほしい等の挨拶で船釣り教室は終了。

(報告 山本)



報告 7

第38回大阪湾稚魚放流事業に参加(R1-8/8)

8月8日(金)日本釣振興会大阪府支部主催の稚魚放流に、インストラクター5名で参加協力しました。昨年は台風接近により不参加となったボーイスカウトも参加。今年度からチヌ18,000尾は近畿大学水産養殖種苗センターから、キジハタは(公財)大阪府漁業振興基金栽培時事業場から稚魚の提供を受けて実施。10時から主催の代表者の挨拶や説明の後到着したトラックから参加ボランティアがバケツリレーで、協力団体の大阪釣船漁業協同組合協力船に運び込みました。稚魚は昨年より少し大きかった

ように感じました。積み込みの終わった船にボーイスカウトとボランティア、報道関係者が乗船しそれぞれの放流場所に向かって出航し、指定場所でボーイスカウトの手によって放流しました。帰港してから皆で清掃作業を行い、当日はすがすがしい気分で行うことができました。(報告 事務局物部)

